



社会福祉法人下松市社会福祉協議会
〒744-0022 下松市大字末武下617番地2
下松福祉センター内
TEL 41-2242 FAX 41-2330
<http://www.kudamatu-syakyo.or.jp/>



やさしい気持ちでお手伝い

もくじ (主な内容)

新年のあいさつ	2P
共同募金中間報告	3P
下松市社会福祉振興大会	4, 5P
善意の花束	6P
ボランティア探訪	7P
活動レポート	8P

10月に、久保小学校と中村小学校で車いすやアイマスク、高齢者疑似体験を行いました。

児童の皆さんは普段できない体験ということもあり、興味津々で真剣に取り組んでいました。体験後、「声掛けの大切さを学んだ」「階段を上るのが大変だった」など、色々な感想が出ていました。

社会福祉協議会では福祉教育を通して、高齢者や障がい者、子どもなど地域の皆さんが暮らしやすいまちづくりの推進に取り組んでいます。



残り少ない「平成」を思う 下松市社会福祉協議会会長 市川 正紀

あけましておめでとうございませす。皆様には希望に満ちた新年を迎えられたことと存じます。この1年が幸多き年となりますようお祈りいたします。また平素は、下松市社会福祉協議会の諸行事・諸活動等に温かい御支援・御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、「平成」という元号が使われるのもあと数か月となりました。ここまでの平成の30年を振り返ると色々な記憶が甦ってきます。紙面の都合でほんの一部しか書けません。自分なりに感じていることを述べてみたいと思います。

昭和末期から続いた地価と株価の上昇は、平成に入ってからピークを迎えた直後に下落に転じ、バブルが崩壊しました。景気は長く低迷し、貧富の格差が拡大しました。後に「失われた20年」と言われました。

パソコンやスマートフォンなどが普及し、多くの方がインターネットを通じてさまざまな情報を利用したり、発信したりすることができるようになりました。このよう

なネットの普及は暮らしや経済活動を大きく変えましたが、子ども達の「ネット依存」が広がるなどの懸念が指摘されています。

昨年の漢字は災害続発だった年を反映して「災」が選ばれました。しかし、災害続発だったのは昨年だけではなくありません。この30年間に多くの大規模自然災害や未曾有の災害に直面しました。災害で犠牲になられた多くの方の御冥福をお祈りするとともに、被災地の一日も早い復興を願っています。

高齢世帯が増え続ける一方で、晩婚化や未婚化などで少子化が急速に進みました。ついに日本は人口が減少する国になりました。働き手不足を克服するため、外国人労働者の受け入れ拡大に向けた「改正出入国管理法」が昨年12月に可決・成立しましたが、具体的な支援策など課題が山積しています。

地方でも都市化が進み、「できれば他人に関わらない」生活スタイルが広がり、地域の間関係が一段と希薄になつていっているように感じます。

一方、大災害が起きた被災地には全国から多くのボランティアが駆け付け、共助の精神が広がっています。

平成に入って日本人のノーベル賞受賞者が増えていることは大変素晴らしいことだと思います。また、スポーツ界での日本人選手の活躍も目を見張るものがあります。2020年のオリンピック・パラリンピックでの活躍を大いに期待したいと思います。

残り少ない「平成」の時代と新しい元号の時代が、皆様にとつてよい時代となりますようお祈りいたします。

表彰 小さな親切

第43回「小さな親切」運動作文コンクールで、久保小学校3年生の武智春香さんが応募総数46,323編の中から優秀賞を受賞し、東京で行われた表彰式に出席されました。おめでとうございます。

なお、武智さんの作文は、社会福祉協議会のHPに掲載していますので、是非ご覧ください。



災害義援金 (平成30年度4月～12月 日赤受付分)

- 東日本大震災義援金 5件 160,549円
- 平成30年北海道胆振東部地震災害義援金 1件 2,000円
- 平成30年7月豪雨災害義援金 1件 30,000円
- 山口県平成30年7月豪雨災害義援金 11件 3,922,863円
- 熊本地震災害義援金 4件 154,715円
- 平成29年7月5日からの大雨災害義援金 1件 200,000円

☆あたたかい御支援ありがとうございました。

なお、下松市共同募金委員会及び社会福祉協議会では、歳末たすけあい募金と善意銀行からの浄財を、市内の福祉施設や障がい者(児)、ひとり親世帯等に歳末見舞金として届けました。



平成30年度赤い羽根共同募金運動は、皆さまのご理解、ご協力により、滞りなく実施することができました。皆さまからの温かいお気持ちと多大なるお力添えに厚くお礼申し上げます。お寄せいただいた募金は、市内の地域福祉活動の推進や福祉団体などの育成費として有効に活用させていただきます。

「赤い羽根共同募金」「歳末たすけあい募金」
皆さまのご協力、ありがとうございました



皆さまから寄せられた募金額

12,016,864円

(平成31年1月4日現在)

戸別募金	8,050,850円
法人募金	1,224,362円
職域募金	325,083円
街頭募金	205,679円
学校募金	222,680円
その他の募金	1,988,210円

歳末たすけあい募金
(下松市共同募金委員会)

地域歳末見舞金	5件	25,000円
福祉施設見舞金	6施設	120,000円
歳末福祉活動	13件	130,000円

地域の皆さまの善意に感謝します。

善意銀行
(下松市社会福祉協議会)

身体・知的障がい者(児)介護見舞金	181件	2,880,000円
福祉施設見舞金	6施設	180,000円
交通遺児等見舞金	3件	90,000円

ふれあひ
交流ベンチを
設置しています

設置しています

高齢者や障がい者、子ども達などの地域住民同士の交流を促進するとともに、地区社会福祉協議会、下松市共同募金委員会の啓発を図ることを目的に、ふれあひ交流ベンチを市内のバス停などに設置しています。

設置されたベンチでは、地域住民の皆さんが会話を楽しまれ、大変喜ばれております。パスの待合時間や外出時における休憩場所としても、お気軽にご利用ください。



平成三十年度 下松市社会福祉振興大会

11月30日、スターピアくだまつ展示ホールで、平成30年度下松市社会福祉振興大会が盛大に開催されました。



この大会は、「だれもが安心して暮らせる福祉のまちづくり」をめざして、福祉関係者が一堂に会し、地域福祉のより一層の推進と社会福祉の発展に資することを目的に開催したもので、約250人の参加がありました。

式典では、功労ごとに表彰が行われ、長年にわたり社会福祉の向上に尽力された功労者に國井市長から市長表彰（2名）が、市川社会福祉協議会長から社会福祉協議会長表彰（38名・1団体）が贈られ、敬意と感謝の意を表しました。



式典終了後には、廿日市市社会福祉協議会長で広島文教女子大学非常勤講師の蛭江紀雄氏による、「わが地域、わが事の支え合い活動のすすめ」～みんなの出番づくり

で地域をつくる」と題しての講演がありました。

講演では、こういう地域にしたという思いを持ち、住民一人ひとりが参加し、知恵を出し合い、「人事ではなく、わが事」として取り組む大切さを、実際にまちづくり活動に携わっている経験をもとに話されました。

また、これから迎える地域共生社会の在り方について「人間は生き方も考え方も違う。1つにまとめるのではなく、多様性をお互いが受け入れ、つながり合える地域社会を作っていくことが大切になる」と話され、参加者一同改めて考える貴重な機会となりました。



受賞
おめでとう
ございます

(順不同敬称略)

下松市長表彰

【社会福祉関係功労】

2名

弘中 佳代子 (桜町)
諏訪 啓子 (生野屋)

下松市社会福祉協議会長表彰

【市社協・地区社協関係功労】

4名

小松 強 (生野屋)
浅田 美美枝 (末武中)
寶迫 和美 (末武下)
近道 千佐子 (河内)



【民間施設、福祉関係団体功労】

8名・1団体

- 白井 春好 (河内)
- 武居 眞理子 (生野屋)
- 橋本 玲子 (東豊井)
- 久田 昌子 (南花岡)
- 大木 一正 (切山)
- 井上 カツエ (桜町)
- 近藤 悦子 (末武上)
- 蔵田 啓子 (東陽)
- 下松市手をつなぐ育成会

【民生委員児童委員功労】

7名

- 竹尾 三津子 (美里町)
- 田村 範子 (美里町)
- 白井 康子 (潮音町)
- 橋本 ゆかり (潮音町)
- 小本 悦子 (駅南)
- 江村 栄子 (若宮町)
- 岡崎 みゆき (西豊井)

【福祉員功労】

6名

- 水津 礼子 (末武下)
- 原田 光枝 (潮音町)
- 海津 紀美恵 (桜町)
- 岡田 孝行 (河内)
- 木村 一恵 (切山)
- 岩本 竹司 (山田)

【自治会長功労】

4名

- 島山 榮 (美里町)
- 竹野 良次 (河内)

【ボランティア功労】

9名

- 藤井 俊夫 (河内)
- 壱岐 卓郎 (河内)
- 眞鍋 祥子 (桜町)
- 清木 美津子 (南花岡)
- 城 洋子 (周南市)
- 田村 恵子 (南花岡)
- 大村 浩二 (東陽)
- 藤田 洋子 (東豊井)
- 吉永 節子 (河内)
- 吉国 百合子 (生野屋)
- 馬場 公子 (切山)
- 下松点訳・音訳友の会 (えくぼの会)
- 下松点訳・音訳友の会 (なでしこの会)
- 下松点訳・音訳友の会 (東陽)
- 下松点訳・音訳友の会 (まっぼつくりの会)
- 下松点訳・音訳友の会 (つくしの会)
- 下松点訳・音訳友の会 (つくしの会)
- 下松点訳・音訳友の会 (話そう会)
- たんぼの会



山口県総合社会福祉大会

10月31日、萩市民会館で、県内の社会福祉関係者が一堂に会し、「第68回山口県総合社会福祉大会」が開催されました。

この大会の席上、山口県知事表彰をはじめとし、各福祉団体会長表彰が行われ、本市から次の皆さんが受賞されました。

山口県老人クラブ連合会长表彰

一般功労者

- 伊藤 貞夫 糀谷 政人
- 田中 磐雄 怒和 輝雄
- 舛田 一

山口県老人福祉施設協議会长表彰

会长表彰

- 亀山 雄樹 岩本 好史

☆全国民生委員児童委員連合会长表彰

(平成30年9月27日の全国大会で表彰)

永年勤続民生委員・児童委員表彰

- 波多野 智 松村 勉
- 西田 節夫 川戸 三孝
- 浅田 芙美枝 中原 久美子
- 藤田 典敬 木戸 明子
- 弘中 洋子 河村 好未
- 中川 満由美 藤井 照慈

☆全国社会福祉協議会长表彰

(平成30年11月22日の全国大会で表彰)

民生委員・児童委員功労

- 内山 俊雄

☆中央共同募金会长表彰

(平成30年11月22日の全国大会で表彰)

奉仕功労者

- 菊本 凉子

山口県共同募金会长表彰

共同募金運動奉仕者

- 浅田 信子 角井 武彦
- 山本 金生

山口県社会福祉協議会长表彰

社会福祉事業功労者

- 長野 光雄 弘中 憲明

社会福祉事業協助者

- 近藤 哲也

山口県共同募金会长表彰

共同募金運動奉仕者

- 浅田 信子 角井 武彦
- 山本 金生

善意の花束

社会福祉事業のためにと、市民の皆様から、善意銀行に忌明けその他の厚志をきめてたくさんの方の善意が寄せられました。ここに厚くお礼申し上げます。

なお、氏名・金額はご了解いただいた方のみ掲載しています。(順不同)
 (平成30年9月16日～平成30年12月20日 受付分)



香典返し

古川町 三奈木悦子様 一〇〇,〇〇〇円

(御主人) 勝美様

河内 國井 和彦様

ご希望により金額は掲載しておりません

(御母堂) イセ子様

潮音町 吉原 武洋様 一〇〇,〇〇〇円

(御母堂) ミチ子様

一般寄付

くだまつスポーツセンター様

累計 二〇,〇〇〇円

累計 一,一二二,四〇〇円

とよいまつり実行委員会様 五,〇〇〇円

累計 六〇,一〇〇円

中央公民館ふれあいまつり実行委員会様

累計 一〇,〇〇〇円

累計 三三五,四〇〇円

山口県立下松高等学校生徒会様

累計 二〇,〇〇〇円

累計 五一七,六六四円

下松グランドゴルフ協会様 八,〇〇〇円

累計 九三,七一〇円

本浦地区社会福祉協議会様 三,〇〇〇円

累計 一一,〇〇〇円

瀬戸内ひらめ友の会様 三九,八四四円

累計 二,七八五,七四四円



物品寄付

マルハン下松店様

匿名様

匿名様

匿名様

お菓子

米三五キロ

米六〇キロ

米三〇〇キロ

介護用品(紙おむつ)

リングブル

使用済切手

一件

一八件

一六件

福祉施設見学会 参加者募集

日時 3月7日(木)
9時30分～15時30分

内容 ○福祉講座
・「介護保険について」

○施設見学
・小規模多機能型居宅介護施設「のんびり村米川」
・サービス付き高齢者向け住宅「ねがい星」
・特別養護老人ホーム「ほしのさと」

対象 福祉に関心のある市民

定員 20人(応募者多数の場合は抽選)

参加料 無料(昼食は各自ご持参ください)

締切日 2月13日(水)

申込方法 はがき又は電話、FAX
(住所、氏名、年齢、電話番号)



申し込み・問い合わせ先

〒744-0022 下松市大字末武下617-2
下松市社会福祉協議会
TEL 41-2242 FAX 41-2330

始めよう献血

君の勇気が命を救う

～「はたちの献血」キャンペーン～

(平成31年1月1日～平成31年2月28日)

新たに成人式を迎える「はたち」の若者を中心として広く国民各層に献血に関する理解と協力を求め、冬季における献血者確保ならびに一層の推進を図ることを目的にキャンペーンが行われます。下松市では下記によりイベントを実施します。

【とき】 平成31年2月11日(月)
10:00～12:00 / 13:15～16:00

【ところ】 サンリブ下松



☆当日、献血をされた方には「お菓子の掴み取り」やクリアファイルを配布予定。

ボランティア探訪



「花岡地区社協ボランティア部」は慰問ハガキの送付、花鉢配布、横断歩道の立哨、高齢者施設への慰問など様々な活動を行っています。

慰問ハガキは、暑中見舞い、行事案内、年賀状と年3回送付しています。対象者は約260人で、ハガキの宛名は会員の書ききで、心のこもった温かみを感じました。送付したハガキの中には返事が返って来るものもあり、会員の方のやりがいになっているようでした。



「たんぼぼの会」は施設への演芸慰問や地域のイベントへの参加、お話し相手ボランティアなどを行っているグループです。

慰問やイベントでは、「楽しく行うこと」や「させていただく」という気持ちを大切にして活動しています。また、会のメンバーとの出会い、人の輪の広がり、練習や慰問活動が楽しみで、この会が元気の源になっているそうです。皆さん楽しそうに練習に励んだり、会話をしたりと午後のひと時を楽しまれています。

みんな楽しくいきいきサロン

レクリエーションを学びました

12月14日、下松福祉センターで、「いきいきサロン担い手講座」を開催しました。日本レクリエーション協会の山野井隆さんから普段のサロン活動に活かせるレクリエーションやゲームを教えていただき、35人の参加者からは、「サロンに帰ってみんなでやってみよう」との声が上がっていました。



あなたの地域にも ふれあい・いきいきサロン を作ってみませんか？

現在、市内39か所にあるサロンでは、独自のプログラム・メニューを準備して開催しています。この活動を通して、「誰もが・身近に・気軽に・楽しく集まれる場所」として「地域の輪」ができています。

サロン活動で期待される効果

- 「閉じこもり」の防止
- 「仲間づくり」の場
- 「生きがいづくり」のきっかけに
- 「役に立つ情報交換」の場



市社協では、サロンの立ち上げや運営支援を行っています。お気軽にご相談ください。

下松市社会福祉協議会 TEL 41-2242

活動レポート

地域の皆さんとよきご紹介します



〈進めよう、地域づくり〉

笠戸島地区生活支援協議体

10月18日、笠戸島公民館で、笠戸島地域で活動されている各団体の代表者が集まり、笠戸島地区生活支援協議体が開催されました。

今回の会議では、7月の豪雨災害での取り組みや情報の共有を行いました。代表者の皆さんから、各団体の活動状況や災害時の対応・反省点などを報告していただき、お互いの活動を深く知ることによって、これからの笠戸島地区で取り組む内容を考える機会となりました。



聴くことからはじまります



10月2日から「お話し相手ボランティア講座」を開催しました。この講座は4回講座で、「聴き上手になるために」と題して臨床心理士の堀江秀紀さんにコミュニケーションのコツを、高齢者施設職員に「高齢者の理解と接し方のポイント」についてお話ししていただき、施設実習やグループワークも行いました。

参加者からは、「寄り添う気持ちが大切だと分かった」「体験談が聞けて良かった」などの声が聞かれ有意義な時間となり、講座終了後、お話し相手ボランティアの活動を始めた方もいらっしゃいました。

かわいいなあ



11月27日、久保中学校で3年生の生徒の皆さんと1歳未満の親子がふれあう「子育てひろば」が実施されました。

初めての体験に、緊張していた生徒の皆さんも、上手に抱っこしながら赤ちゃんと笑顔で見つめ合っていました。「子育ての難しさがわかり、母親がどれだけ苦労しているのか、十分に理解することができた」と、この体験を通じ、子育ての大変さを実感するとともに、自分の母親に対する感謝のこともありました。

いつも手元に

赤い羽根

12月2日、ゆめタウン下松で、下松市福祉健康まつりが開催され、社会福祉協議会では、赤い羽根共同募金キャラクターのしおり作りや、災害ボランティアセンターの展示を行いました。

子どもたちは、キャラクターの描かれた用紙に思い思いに「ぬりえ」をし、赤い羽根を裏面に貼り付け、名前を書いてラミネート加工して、「しおり」にしてみました。自分の「ぬりえ」が「しおり」になっていく様子を興味津々にのぞき込んでいました。またオリジナルの「しおり」という事もあり、当日は大好評でした。

